

図書館の魅力

『推し活すずか・みえ箱推し』

子どもから大人まで幅広くご利用いただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。2月のテーマコーナーは「推し活すずか・みえ箱推し」です。鈴鹿市や三重県出身の作家の本、三重県を舞台にした本を集めました(2月28日月まで)。

『さるシェフのオムライスやさん』

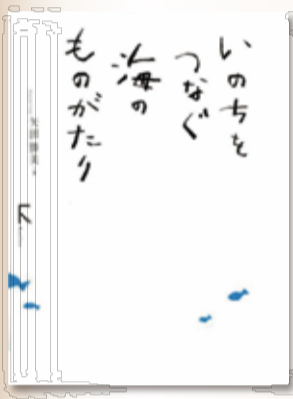
(ひばさみりさ/作 みらいパブリッシング)



丘の上にある、さるシェフのオムライスやさん。お店の人気は動物たちの体の大きさに合わせて作られたオムライス。ある時やってきたお客さんは小さなハムスターくん。シェフはぴったりの大きさのオムライスを作れるかな？
※著者のひばさみりささんは三重県在住の方です。

『いのちをつなぐ海のものごと』

(矢田勝美/著 フォルズ)



海を相手に働く漁師に注目し、とった生き物に感謝する姿や、自然と付き合う知恵やその仕事を、著者が育った伊勢湾奥部の鈴鹿で働く漁師たちをモデルにしながら紹介。海の恵みが日々どのように海からやってくるのかも綴る。

※4月から高校の国語の教科書に掲載予定です。著者の矢田勝美さんは三重県鈴鹿市生まれのイラストレーターです。

【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】

私たちが住んでいる三重県からどんな作品が生まれたのか。本を読みながら知らなかった三重県の魅力を発見してみましょう。



モータースポーツお宝探検隊 vol.10

今回のお宝は、1979年に英国で撮影されたこちらの写真。右から2人目が後のF1世界チャンピオン、ナイジェル・マンセル。その左が鈴鹿モータースポーツ友の会理事長の畑川治さん(74歳 算所)です。

20歳を過ぎてからのレース人生を歩んだ畑川さんですが、速く走るための知識と理論、そして才能を武器に1977年のFL500チャンピオンに輝きます。



次に畑川さんが挑戦したのは、F1を目指す世界の精鋭がひしめく英国F3選手権。そこで光を放っていたのが若き日のマンセルでした。

転機はある日の練習走行での出来事。コース上でマンセルの鋭い走りを目の当たりにした畑川さんは世界の壁を痛感。きっぱりと競技者人生を終え、その後はマシン開発や若手選手の育成などに力を注いできました。元F1ドライバー鈴木亜久里さんら多くの著名選手が畑川さんの教え子です。

偉大な天才との出会いがもたらした畑川さんの決断が、現在のモータースポーツ界に大輪の花々を咲かせているのです。

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



今年はラニーニャ現象の影響もあり、全国各地から大雪のニュースが届いています。私の地元は雪がたくさん降るところで、実家にいたころの冬は、屋根の雪下ろしや家の前の雪かきで大忙しでした。ご近所同士で「今年もいっぱい降るね」「そろそろカーポートの雪を下ろしたほうがええで」など、声を掛け合い、みんなで乗り越えてきました。素敵なお近所づきあいだったなと懐かしく思います。

今回の特集で、地域づくりの取り組みを取材する中、「ご近所同士で助け合う「近助」が非常時には大事」と聞き、共感しました。近所の小さなコミュニティだからこそ、家族のように心配したり、困りごとを相談したりなど、できることがたくさんあります。どんなときでもお互い声を掛け合い、助け合う。みんなでそんな関係をつくっていったらいいなと思います。(恵)